SUEMURA EIICHIRO

守谷市議会議員 **すえむら 英一郎** 後援会ニュース

MORIYA CITY COUNCIL MEMBER

もりや市議会だより　2017年7月号　【討議資料】

# 目標達成基準の明確化を求めました。

現在市で企画されている「農が繋ぐまち地域資源連携推進プロジェクト」に関する補正予算案が可決されました。
予算規模は平成 29 年度から 31 年度までの３か年で、合計５７８０万円ほど。
半分は国の地方創生推進交付金で負担予定、残りの半分は市の一般財源からの負担になります。

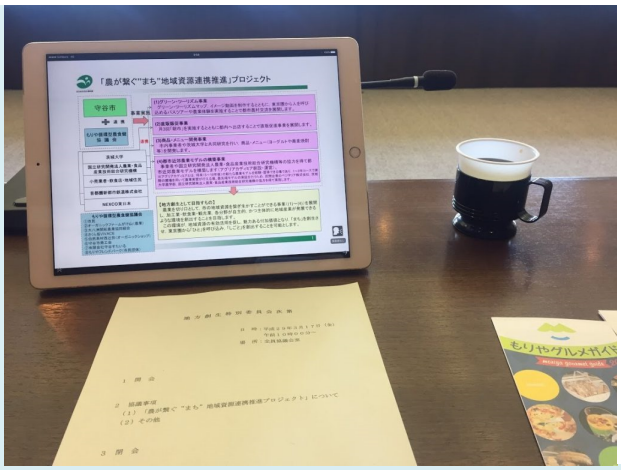
事業実施主体は、もりや循環型農食健協議会（通称「もりあぐ」）。市としては財政面などから支援する予定で、大きく４つの事業内容が柱となっています。

- **都市農村交流事業（グリーンツーリズム）の展開**
- **ヨーグルトを用いた新商品や蕎麦焼酎などの開発**
- **それら新商品を用いた直販促進事業の展開**
- **「アグリアカディミア」の創設による、都市近郊型最新農業モデルの構築**

事業目的自体の素晴らしさに疑問はありません。しかし疑問点もありました。

**●担当事業者選定過程での「公平性」が犠牲になっていないか。**

通常は予算や事業目的を定めた上で、担当事業者選定の際、プロポーザル方式で入札をかけるなどにより機会均等を図る必要がありますが、今回はそのようなことが行われていません。
他の手段で競争を図った形式もなく、実質的に特命随意契約のような形で選定が行われています。




**●目標達成基準が最後まであいまいではないか。**

事業スタートに際しては、何をもって成功とするか事前に具体的な数値で定めておく必要があります。そうでなくては、後ほど検証ができません。
税金を支出して行う支援ですからなおさらですが、最後まで目標達成基準があいまいな部分がありました。

そのような段階で、取りあえずは５７８０万円の予算案を承認してくれというのは非常に厳しいといいますか、民間企業ではありえないのではないかとも感じます。